



プライドと誇り

先月、全国三ヶ所で開催されました『新発式』。力強い体験発表には“プライド”を、対話した参加メンバーからは“新たなる挑戦”を感じました。まさに本年のテーマ「新たなる挑戦・『PRIDE』」を皆様と共有致しました。

このテーマにおける大事なキーワードは、“喜び”の存在です。確かに少子高齢化による人手不足の問題や、そのことにより業界自体が厳しいことは実感として認めます。しかし、人手不足や、厳しい業界であっても喜々として頑張っている実態があれば、“人手”や“厳しさ”が原因ではない。むしろ“喜び”がないことが原因で、直面する現実に関心を奪われてしまい、将来を描けないように思います。忘れてはいけないのは、スタッフ一人ひとりの内面にある喜びの存在ではないでしょうか。

そこで“喜びの提供”とは、まず、一人ひとりが抱える悩みや苦しみを取り除くことです。次に、未来を明かにすることであり、現在の意味合いを教えること、そして、共に闘い、共に苦しんで、共に将来の夢を見ることです。

しかし、このように伝えると「“未来を明かにすること”は分かりますが、その“未来”が、私には見えません！」と、あるトップリーダーから言われたことがありました。

確かに将来展望が見出しづらいという現状もあるかもしれません。しかし、その未来に本気で向き合い、悩み、考えることが、トップリーダー本来の仕事であり、役割ではないでしょうか。

それでも見出すことができなければ、一度立ち止まり、自分たちがやっている仕事へのプライドを、もう一度持つことです。たとえ一生懸命でも、プライドや誇りがなければ、環境が厳しくなると「この先は難しいな」となってしまう、未来を見出せない。だからこそ、喜びのベースとなるプライドを取り戻すことが大事だと実感しています。

喜びの提供

私が入社して間もなく、創業者が担当されるカウンセリングに同行する機会がありました。そのなかで、クライアントオーナーは、苦慮する売上や利益に関する質問をされる。すると、創業者は「いくら売上が足りないの？いくらあればいいの？」と尋ねる。オーナーは「2億程の売上があれば・・・」と答えると、「じゃあ、俺が2億をやるよ」と創業者は言われ、私は一瞬、ドキッとしました。続けて「それからは、どうするんだ？」と。それを聞いた相手は、ハタと止まってしまいました。

つまり、本当の喜びは何処にあるのかと。確かに無いものを得られる喜びもあります。しかし、創業者は、オーナーの苦しみを察し、気付きを与える。この現状に向き合い、未来を明かにし、共に前進することが喜びなのだと。前述した“喜びの提供”をされる創業者を目の当たりにし、私自身も強く印象に残る場面でした。

物語『少女パレアナ』は、亡き父との約束である“何にでも喜びを見出す遊び”で、人々の心を明るくしました。私もこの物語に、何度も救われた一人です。逃げ出したくなる出来事に対しても、喜びに切り替える前向きな捉え方を学びました。それは、決して気休めではありません。こうした主体性を持った人は強いと思います。たとえ事業が行き詰まり、将来が見出しづらくとも、こうした強い主体性を身に付けることで視野が広がり、知恵も湧き、未来が開けてくるのではないのでしょうか。

喜びの提供とは、何か特別なものでも、大きなものでもありません。身近な一人からです。その一人とは、先ず自分自身であり、目の前にいる一人です。また、一人ひとりの喜びは違う。だからこそ、誠実に対話し、相手をよく知らなければいけません。抱えていた悩みを取り除くことが、喜びになることもあれば、思い描く将来を真摯に傾聴することで、前向きにもなれます。相手と自分との間の一対一でしか分からない絆を、丁寧に作ることから始めてまいりたい。